様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２２年　５月２１日現在

研究種目：特定領域研究
研究期間：2005　～ 2009
課題番号：17083028
研究課題名（和文）：中国東南部の学術と図書の収集・出版・流通

研究課題名（英文）：Scholarship, and the Collection, Publication, Distribution of Books in Southeast Area of China

研究代表者
高津　孝（TAKATSU　TAKASHI）
鹿児島大学・法文学部・教授
研究者番号：70206770

研究成果の概要（和文）：
本研究は、中国東南部の代表的交易都市寧波における蔵書樓「天一閣」を中心とした蔵書文化を調査することで、書物の収集の様態、地域社会における意義、生成した学術・心性、その日本への伝播を明らかにすることを目的としている。その成果は、次の５つが挙げられる。
① 『四明経籍志』の出版。寧波地域で前近代に現された全ての図書目録である張寿鏞編『四明経籍志』を、中国社会科学院文学研究所、総括班と共同出版した。
②国際シンポジウムの開催。平成 21 年に、寧波天一閣との共同シンポジウムを中国、日本の双方で開催し、その研究成果を、調査班雑誌第 4 号に掲載発表した。平成 19 年に、国文学研究資料館において、出版文化班シンポジウム「中国東南部の出版文化と日本の出版文化」（国文学研究資料館共催）を開催し、その研究成果を、調査班雑誌第３号に掲載発表した。
③ 中国、台湾、日本各地での善本調査。
高津、大田、陳捷は、それぞれの専攻する学問分野に関連して、中国、台湾、日本各地の図書館を精力的に訪問調査し、関連する多数の論文を発表した。
④ 国際交流の成果
高津は、最近の欧米の中国学を代表する論考を選択し、翻訳集『中国学のパースペクティヴ』を刊行した。また、英国オックスフォード大学ヒルデ・デ・ヴィールドト博士の協力を得て宋代図書文化に関する共同研究を行い、博士の関連する論考二篇を翻訳した。
⑤学際的研究の進展
学際的研究に積極的に取り組み、日本の中世石塔（九州西部に広く分布する薩摩塔）に中国寧波産の石材が使用されていることを、科学的分析により証明した。この成果は、中世日本と中国との交流を考えるための全く新しい資料となった。

研究成果の概要（英文）：
This research aims to reveal the condition of the Tianyi Pavilion Library book collection in Ningbo, China, its significance for its community, the scholarship and mentality created on the basis of it, and its diffusion to Japan.
The research achievements are as follows:
1. Publication of Siming Jingjizhi
In partnership with the Literature division of the Chinese Academy of Social Sciences, our research team published Siming Jingjizhi, edited by Zhang Shouyong, which is the list of all works written by authors from Ningbo in pre-modern China.
2. International symposiums
In 2009, our research team jointly held international symposiums with Ningbo Tianyi Pavilion Library in both China and Japan. The findings were published in Volume 4 of our journal. In 2007, our research team jointly held an international symposium with the

National Institute of Japanese Literature. The findings were published in Volume 3 of our journal.
3. Bibliographical investigation in China, Taiwan and Japan
Our research team researched Chinese book collections bibliographically in China, Taiwan and Japan, and published many papers containing the findings.
4. Results of academic exchange
In 2010, Takatsu published Perspective of Sinology, which is a book of translated articles representative of sinological scholarship in Europe and the United States. Takatsu also conducted joint research with Dr. Hilde De Weerdt of the University of Oxford, and translated her two papers on Chinese book culture in the Song Dynasty into Japanese.
5. Development of interdisciplinary study
Taking an interdisciplinary approach, Takatsu proved by scientific analysis that Satsuma stone pagodas, medieval pagodas found throughout western Kyushu, were constructed using stone from Ningbo. This finding will be an important resource for studying the relationship between Japan and China during the Middle Ages.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００５年度	4,300,000	0	4,300,000
２００６年度	4,300,000	0	4,300,000
２００７年度	4,300,000	0	4,300,000
２００８年度	4,300,000	0	4,300,000
２００９年度	4,300,000	0	4,300,000
総　計	21,500,000	0	21,500,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：東アジア海域交流
キーワード：出版文化、寧波、日中交流、東アジア、海域史、記録文化、貨幣、宋代

１．研究開始当初の背景
現在、中国における出版史の研究は、概括的な王朝ごとの区分研究の段階を脱し、地域を限定した地域出版史研究へと移り変わりつつある。また、中国における古典籍の総合目録が出版され、各地の大学や地方図書館の図書目録も数多く出版され、それに基づいた図書の実体研究が可能になりつつある。アメリカの研究者はいち早くこの状況に対応し、個別地域を取り上げ、そこで出版された全ての図書を可能な限り調査し、それに基づいた統計的研究により、これまで知ることの出来なかった確実な根拠に基づく出版研究を行い始めている。これまでの日本における、豊富な中国典籍の所蔵に基づいた出版研究の優位性はもはや存在しなくなったと言える。

２．研究の目的
本研究は、中国における出版の中心地、中国東南部の出版センターとしての諸都市（南京、杭州、建陽等）における学術、出版活動の実体と、海外貿易に対して開かれた沿岸部諸都市（福州、寧波等）における図書の収集、流通、及びこれら諸都市を経由して琉球、日本へと輸出された図書について、東アジア全体にわたる図書の出版流通史、学術の交流史を明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法
現在必要な研究は、欧米における出版文化史研究の世界的動向を取り入れ、中国側資料を自在に駆使し、日本側の研究成果と連携させた、個別都市に焦点を絞った図書の出版、収集、流通についての相互的研究である。本研究はまず、欧米の研究者と協力関係を結び、その方法論の検討分析を踏まえ、歴史的に日本と密接な関係にある沿海部の貿易都市寧波を取り上げ、寧波における図書収集と学術との関係、貿易先の日本との関係について調査を行う。さらに、研究分担者の協力を得て、文化交流史的側面からの図書の問題、東アジア海域交流史の側面からの流通の問題についても検討し、総合的な視野から、出版史、学術史の問題を検討する。

４．研究成果

出版文化班における研究は、中国東南部の代表的交易都市寧波における蔵書樓「天一閣」と寧波の蔵書家の蔵書を調査することで、書物の収集の様態、地域社会における意義、生成した学術・心性、その日本への伝播を明らかにすることを目的としていた。

出版文化班は、班全体としての活動、成果としては、次の５つが挙げられる。

① 『四明経籍志』の出版

目的に掲げる「寧波の蔵書家研究」の点では、総括班と共同で、中国社会科学院文学研究所図書館に所蔵されていた、寧波出身の蔵書家張寿鏞編『四明経籍志』を、中国社会科学院文学研究所との共同企画という形での出版を実現させたことが挙げられる。交渉は高津が担当し、北京での撮影については、陳捷が撮影業者とともに撮影に当たった。『四明経籍志』は、一帙 5 冊の線装本の形式で、凸版印刷より刊行され、中国学を研究する世界各地の大学図書館、有名図書館などに寄贈された。また、平装版として、縮小印刷された 1 冊本も併せて刊行され、研究者の便を図った。また、本書にもともと無かった目次を作成した。

② 国際シンポジウムの開催

目的に掲げる「寧波の蔵書樓「天一閣」研究」の点では、2009 年に、寧波天一閣との共同調査、共同シンポジウムを中国、日本の双方で実現した。天一閣はこれまで対外開放を基本的には行ってこなかったが、今回、2009 年 7 月 23 日に開催された天一閣合同研究会「中国東南地区の文献集散と天一閣」（天一閣昼錦堂、天一閣側 9 名、日本側 10 名）においては、日本側発表４人、天一閣側発表４人があり、さらに、400 年前の版木である明代版木の調査（『范氏奇書』の一つ『竹書紀年』の版木）が、天一閣側の特段の配慮に実現したことは幸いであった。更に、2009 年 11 月 21 日、東京大学で開催された国文学研究資料館との共催の出版文化国際シンポジウムには、特に天一閣から袁慧先生をお招きし、明代より天一閣に残存している版木についての報告を行っていただいた。このシンポジウムにおいて発表された研究成果は、調査班雑誌『東アジア海域交流史　現地調査研究』第 4 号に掲載され、目的に掲げる「書物の収集の様態、地域社会における意義」と言う点を明らかにしえた。

また、2007 年 12 月 13 日に、国文学研究資料館において、出版文化班シンポジウム「中国東南部の出版文化と日本の出版文化」（国文学研究資料館共催）を開催し、12 月 15 日に京都国立博物館にてワークショップ「中国出版文化の社会史」を開催した。中国より、沈乃文（北京大学図書館古籍善本部主任）、趙前（中国国家図書館善本特藏部副研究員）の二先生をお招きし、講演を行っていただいた。中国を代表する図書館における古典籍研究者を迎え、日本の研究者との交流を深め大きな成果が挙げられた。このシンポジウムにおいて発表された研究成果は、調査班雑誌『東アジア海域交流史　現地調査研究』第３号に掲載され、目的に掲げる「生成した学術・心性、その日本への伝播」と言う点を明らかにしえた。

③ 中国、台湾、日本各地の図書館を訪問しての善本調査の成果

出版文化班に所属する高津、大田、陳捷は、それぞれの専攻する学問分野に関連して、中国、台湾、日本各地の図書館を精力的に訪問調査し、学術的成果を挙げ、目的に掲げる「書物の収集の様態、地域社会における意義、生成した学術・心性、その日本への伝播」を明らかにしえた。

④ 国際交流の成果

目的に掲げる「日本、中国、米国の研究蓄積を縦横に駆使した総合的研究成果の達成」をめざす点では、高津は、本科研の期間に日本を訪問した欧米の研究者の論文を中心として、最近の欧米の中国学を代表する論考を選択し、2010 年 4 月勉誠出版より『中国学のパースペクティヴ』422pp を刊行した。

⑤学際的研究の進展

現地調査研究部門に課せられた課題の一つに学際的研究の推進がある。出版文化班においては、高津が、積極的にこの面をカバーし、2005 年度より、現地調査研究部門代表の岡元司（広島大学）の主催する学際的調査「中国寧波市銭塘湖周辺史氏墓調査」に参加し、寧波における南宋の墓葬、石像文化を調査した。そこで、寧波地域の南宋石造物の石材が、寧波産石材梅園石であること、梅園石の産地が寧波市西部の梅園郷であるとの知見を得、更に採石場を訪問して石材の採集も行った。その後、鹿児島の坊津輝津館に所蔵される日本中世の石造物薩摩塔の石材が、寧波産石材の梅園石であることを肉眼による観察から推定し、2008 年 5 月に橋口亘（南さつま市教育委員会、考古学）との共著で 「薩摩塔小考」(『南日本文化財研究』No. 7) を発表した。さらに、科学的分析の必要性を感じ、2009 年 3 月、大木公彦（鹿児島大学総合博物館館長、岩石学）に依頼し、坊津薩摩塔より採取した石材試料と寧波市の採石場より採取した梅園石について、薄片作成のうえ、偏光顕微鏡観察を行い、鉱物組成やその特徴について比較し、極めて類似した凝灰岩であることを確認した。さらに、X 線顕微鏡による元素とその分布、高速 X 線回折装置による元素と鉱物の特定を行った。結果、坊津薩摩塔の石材は、中国寧波産石材「梅園石」であると認定可能であることが判明した。引き続き、高津、橋

ロ、大木は、二回に渡って、北部九州地区（長崎県、佐賀県、福岡県）薩摩塔調査を行い、鹿児島県下を含め約二十基の現存する薩摩塔のほとんどについて、肉眼およびルーペによる観察に基づく岩石学的調査を行い、それらが坊津薩摩塔と同一石材であるとの結論を得た。何時、誰が、何の目的で作成したのか謎に包まれていたため、様式論的研究しか行われて来なかった薩摩塔に対して、素材論的探究により新たな研究視角を提示することになった。中国学、考古学、岩石学の学際的協力により得られた結論は、中世日本と中国との交流を考えるための新たな扉を開く事になったといえる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５２件）

① 高津孝・橋口亘・大木公彦「薩摩塔研究―中国産石材による中国系石造物という視点から」(『鹿大史学』57 号、査読無、2010 年２月)
② 大木公彦・古澤明・高津孝・橋口亘「薩摩塔石材と中国寧波産の梅園石との岩石学的分析による対比」(鹿児島大学理学部『鹿児島大学理学部紀要』42、査読無、2009 年 12 月)
③ 大田由紀夫「鈔から銀へ」伊原弘編『宋銭の世界』勉誠出版、査読無、2009 年８月
④ 陳捷「一八七〇・八〇年代における中国書画家の日本遊歴について」『中国-社会と文化』第 24 号、査読有、2009 年７月
⑤ TAKATSU Takashi," Ming Jianyang Prints and the Spread of the Teachings of Zhu Xi to Japan and the Ryukyu Kingdom in the 17th Century―Jian'an prints around East Asia "The East Asian Mediterranean : Maritime Crossroads of Culture, Commerce and Human Migration. edited by Angela Schottenhammer -- Harrassowitz, 20081231, 404 pp p. -- (East Asian Economic and Socio-Cultural Studies ; 6). P253-270 査読無、2008 年 12 月
⑥ 高津孝「ピジン・クレオール語としての「訓読」」(『「訓読」論―東アジア漢文世界と日本語―』(勉誠出版、査読無、2008 年 10 月)、ｐ87-104
⑦ 大田由紀夫「一四・一五世紀の渡来銭流入―中世日本の場合―」『歴史の理論と教育』128 号、査読有、2008.6
⑧ 高津孝・橋口亘「薩摩塔小考」(『南日本文化財研究』No.7、『南日本文化財研究』刊行会、査読無、2008 年５月)
⑨ 陳捷「彫り師木村嘉平と筆意彫り」『アジア遊学』(勉誠社,東京),109:13(168-180),査読無,(2008.4)
⑩ 陳捷「日本入宋僧南浦紹明與宋僧詩集《一帆風》」『中国典籍与文化論叢』,9：15（85-99），査読有,(2007.4)
⑪ 高津孝「米国の中国出版文化史研究」『中国―社会と文化』第 20 号、査読有、ｐ471-481　2005 年８月

〔学会発表〕（計１６件）

① 大田由紀夫「15 世紀後半の東アジアにおける貨幣流通の変動」日本銀行金融研究所貨幣史研究会、2009 年 12 月 21 日、日本銀行貨幣博物館
② 陳捷「宋代寺院の出版に関する一考察」「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」（特定領域科研）現地調査部門主催第２回出版文化研討会、2009 年 11 月 21 日、東京大学
③ 陳捷「知識空間としての書店街―北京琉璃廠の形成と発展について」都市史研究会、2009 年２月 21 日、東京大学
④ 陳捷「文化の生産と集散の場：琉璃廠書店街と文化の伝播」「伝統文化の連続性：北京伝統景観の保存と古都開発を中心として」シンポジウム、2008 年９月 21 日、北京大学
⑤ 大田由紀夫「２つの琉球」鹿大史学会、2008 年７月 12 日、鹿児島大学
⑥ 陳捷「明治期における日中両国の知識人の筆談資料について」「東アジア海域文化」研究シンポジウム「文献資料からみた東アジア海域文化交流」、2008 年１月 12 日、大阪市立大学学術情報研究センター
⑦ TAKATSU Takashi「Ming Jianyang Prints and the Spread of the Teachings of Zhu Xi to Japan and the Ryukyu Kingdom in the 17th Century　Jian'an prints around East Asia」The East Asian Mediterranean - Maritime Crossroads of Culture, Commerce, and Human Migration. Department for Asian Studies, Sinology. Munich University. 2-3 November 2007
⑧ TAKATSU Takashi「Prose collections printed in Song China」、First Impressions: The Cultural History of Print in Imperial China (8th-14th centuries) : Fairbank Center for East Asian Research, Harvard University, 25-27 June 2007.
⑨ 高津孝「琉球薩摩的博物学与中国」第八回東亜漢学学術会議（台湾・淡江大学）2007 年５月 28 日
⑩ 大田由紀夫「宋元時代の『琉球』」沖縄県立埋蔵文化財センター第 25 回文化講座「中国福建の貿易陶磁と琉球―宋・元代を中心に―」、2007 年５月 19 日、沖縄県中頭郡西

原町沖縄県立埋蔵文化財センター
⑪ 大田由紀夫「15・16 世紀の東アジア経済と貨幣流通」名古屋歴史科学研究会大会、2007 年 5 月 12 日、名古屋大学
⑫ TAKATSU Takashi, Angela schottenhammer「"Tokashiki Tsukan, Lü Fengyi and Sino-Ryukyuan relations in the field of medicine in the early 19th century"」11th International Conference on the History of Science in East Asia 15.-20. August 2005, Munich, Germany

〔図書〕(計 2 件)
① 高津孝訳『中国古典文学批評史』(周勛初著、勉誠出版、1-447pp 2007 年 7 月)
② 高津孝『科挙与詩芸――宋代文学与士人社会』上海古籍出版社　p 1-215　2005 年 8 月

６．研究組織
(1)研究代表者
高津　孝（TAKATSU　TAKASHI）
鹿児島大学・法文学部・教授
研究者番号：70206770

(2)研究分担者
大田　由紀夫（OTA　YUKIO）
鹿児島大学・法文学部・准教授
研究者番号：20295231

陳　捷（CHIN　SHO）
国文学研究資料館・アーカイブズ研究系・准教授
研究者番号：40318580